



## 縄文遺跡の宝庫

世界遺産の白神山地や知床など、今も豊かな自然が残る北海道・北東北には、日本列島の中でも縄文遺跡が濃密に分布し、保存状態がよく、先人たちの知恵や工夫を今に伝える、とても価値の高い遺跡が数多く残されています。縄文遺跡のうち、学術上・歴史上の価値のある遺跡を「史跡」に、史跡のうち学術上の価値が

特に高く、日本文化の象徴と言えるものを「特別史跡」に国が指定します。北海道・北東北の史跡はいずれも面積が広く、この地域で発展した縄文遺跡の規模の大きさを反映しています。「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、特別史跡三内丸山遺跡や特別史跡大湯環状列石を含む**特別史跡・史跡**で構成されています。

## 縄文文化を伝えるタイムカプセル

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、定住の始まりから社会の成熟した様子や人々の生業などの生活跡の実態を示す“遺跡(集落跡、貝塚、低湿地遺跡)”と、精神文化の発展や充実を示す“記念物(環状列石、周堤墓)”などで構成されています。その立地は海岸部、丘陵地帯、湖沼・河川流域など様々で、多様な地理的環境のもとで自然に大きな負荷を与えず、持続可能な土地利用を工夫し巧みに環境に適応した姿を示しています。また、北海道南部と北東北では、津軽海峡を挟みながらも縄文時代前期から中期にかけての円

筒土器文化、後期の十腰内文化、晩期の亀ヶ岡文化など、**縄文文化全般を通じて同一の文化圏が形成**されました。“**津軽海峡文化圏**”とも呼ばれるこの地域には、世界最古級の土器や漆器が出土したほか、大規模環状列石や精神性・芸術性豊かな土偶が集中的に分布しています。遠方との交易・交流も活発に行われ、他地域へ与えた影響も少なくないことから、この地域は文化的に高い求心力を持つとともに縄文文化を牽引してきた中核的な地域であり、まさに縄文文化を代表する地域と言えます。

## 保存・活用の推進

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の多くは遺跡公園として保存・活用されています。遺跡の魅力や価値を伝える案内ガイドや縄文文化に親しむイベント、さまざまな情報発信などを行う民間団体も多く、**地域住民と民間団体、そして自治体が連携・協力**し、縄文文化の価値を伝え未来に残すための積極的な取組を行っています。



史跡大森勝山遺跡保存活用推進会議のみなさんによる「大森勝山じょうもんまつり」土器づくり体験講習 (大森勝山遺跡)



御所野遺跡愛護少年団のみなさんによる清掃活動 (御所野遺跡)